

CAACCS プロジェクト活動報告書（2025 年度）

プロジェクト名「現代アフリカとアジアにおけるイスラーム研究の新展開」 代表者 清水貴夫

① 活動画概要

以下の項目をご記入ください。(1) 活動の目的 (2)メンバー構成 (3) 今年度の活動歴

(1) 活動の目的

フランス人類学・思想に頻出するフランス流ライシテ概念を批判し、アフリカに適応できる文化宗教（特にイスラーム）現実や中間集団を抽出し、普遍的な福利の効く社会形成を問うことが本研究の最終目標である。本研究で着目する西アフリカは、旧宗主国（主にフランス）の政治制度上の影響を強く受けた地域であり、フランス起源のライシテ（「脱宗教化」）の原則の基で国家が形成されている。その一方で、アフリカ大陸においても特にイスラームが浸透した地域であり、イスラームはこの地域の政治、宗教、市民の日常に深くかかわっている。イスラームは私的領域を超えて担う社会救済性を持ち、国家政策において信仰 NGO や宗教学校など、市井の人びとが主体となる「中間組織」が社会福祉や教育の領域において国家に代わって機能している。そこで、本研究では、旧フランス領アフリカを対象とし、国家と個人を二極化せず、社会集合性や協働性を濃淡として捉え、「ライシテ-宗教性」の連続体を析出、分析し、現代（アフリカ）社会のモデルとして提示していく。

(2) メンバー構成

清水貴夫（代表者）、和崎春日（本学研究員）、ウスビ・サコ（東京都立大学）、伊東未来（西南学院大学）、中尾世治（京都大学）、阿毛香絵（京都大学）

(3) 活動予定（①現在予定している研究期間、②今年度の予定に分けて書いてください）
2024 年度をもって科研費（21H00651）「現代西アフリカにおけるライシテと宗教性の連続性の文化人類学的研究」（基盤（B））が終了し、今年度は本プロジェクトの成果を出版物でまとめるべく、専ら執筆活動を行う。

② これまでの業績（論文、著作、シンポジウム、学会発表、作品制作、展覧会、上映会など）

1. 伊東未来, 2025 「アフリカ」『2024 年の歴史学界—展望と回顧』第 5 号
2. 阿毛香絵, 2025, 『若者たちのイスラーム～現代西アフリカを動かす宗教性の人類学』風響社
3. 清水貴夫 2024, 「ムーリッドを中心とする在日セネガル人の民族誌的研究序説」『インターセクション』2: 5-25

4. 阿毛香絵・樫尾直樹 2024「現代社会における宗教性に関するアフリカ・アジア比較研究の可能性」『京都精華大学紀要』57 巻：45－59
5. 中尾世治 2023「人類学における理論と研究の蓄積について-ティヴの経済をめぐる研究史の検討から」『人類学研究所研究論集』12 巻
6. 和崎春日 2022「アジア・アフリカ関係の混濁の奔流-梨泰院に湧出するアフラシア世界」『なじまあ』13 巻